

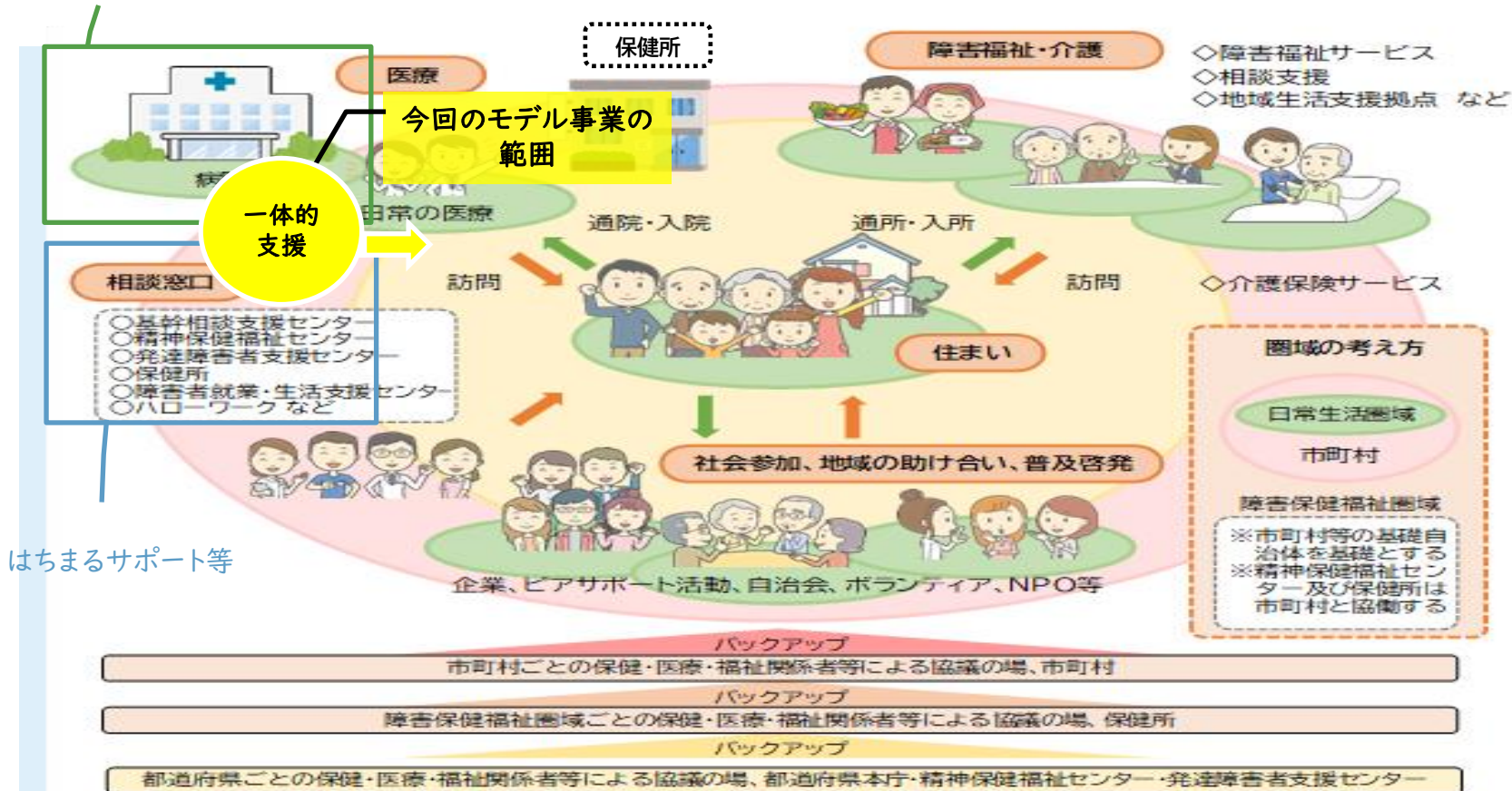
「にも包括」モデル事業の 実施について

令和7年（2025年）1月23日
令和6年度保健所運営会議
健康医療部保健対策課

1 「にも包括」とは？

「にも包括」（厚労省による略称）：精神障害にも対応した地域包括ケアシステム
 ⇒精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らすことができる
 社会を実現するための取組(令和4年 精神保健福祉法改正で示された概念)

早期訪問支援事業



はちまるサポート等

重層的支援体制整備事業の範囲
 (分野や属性を問わない連携・支援体制の整備)

2 「にも包括」への本市の取組み

本市では、法改正前から福祉部と保健所が連携して取り組んできた。

年度	内 容	担当課
平成28年 (2016)	・「八王子市精神障害者早期訪問支援事業」開始	保健対策課
平成29年 (2017)	・上記事業を「にも包括」のアウトリーチ事業と位置づけ	
令和3年 (2021)	・重層的支援体制整備事業 = はちまるサポートで相談開始	福祉政策課
令和4年 (2022)	・「にも包括」WG※1)開始	保健対策課 障害者福祉課 福祉政策課
令和5年 (2023)	・厚生労働省「にも包括」構築支援事業に手上げ →広域アドバイザー※2)の決定、助言・他市視察等の支援を受ける ・「あるね八王子」でモデル事業について検討（4回開催） ・厚生労働省「にも包括ポータルサイト」事例集に本市の取組状況掲載	

※1) WGの愛称「あるね八王子」←本市には、多くのサポート体制が“あるね”から命名
メンバー：精神保健福祉士、訪問看護師、グループホーム所長、相談支援事業所相談員等

※2) 藤井千代先生（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 部長）
高桑友美先生（岡山県精神保健福祉センター 地域支援科長）

3 精神障害者早期訪問支援事業 とは

【事業目的】

精神疾患未治療者や治療中断者等を必要な医療や福祉につなげ、問題行動を低減させる。

【事業内容】

市内精神科病院から派遣された精神保健福祉士と保健所保健師が、対象者を訪問し支援する。

【事業開始】

平成28年度（2016年度）

【担当課】

保健対策課

4 はちまるサポート

[戻る](#)

【事業内容】

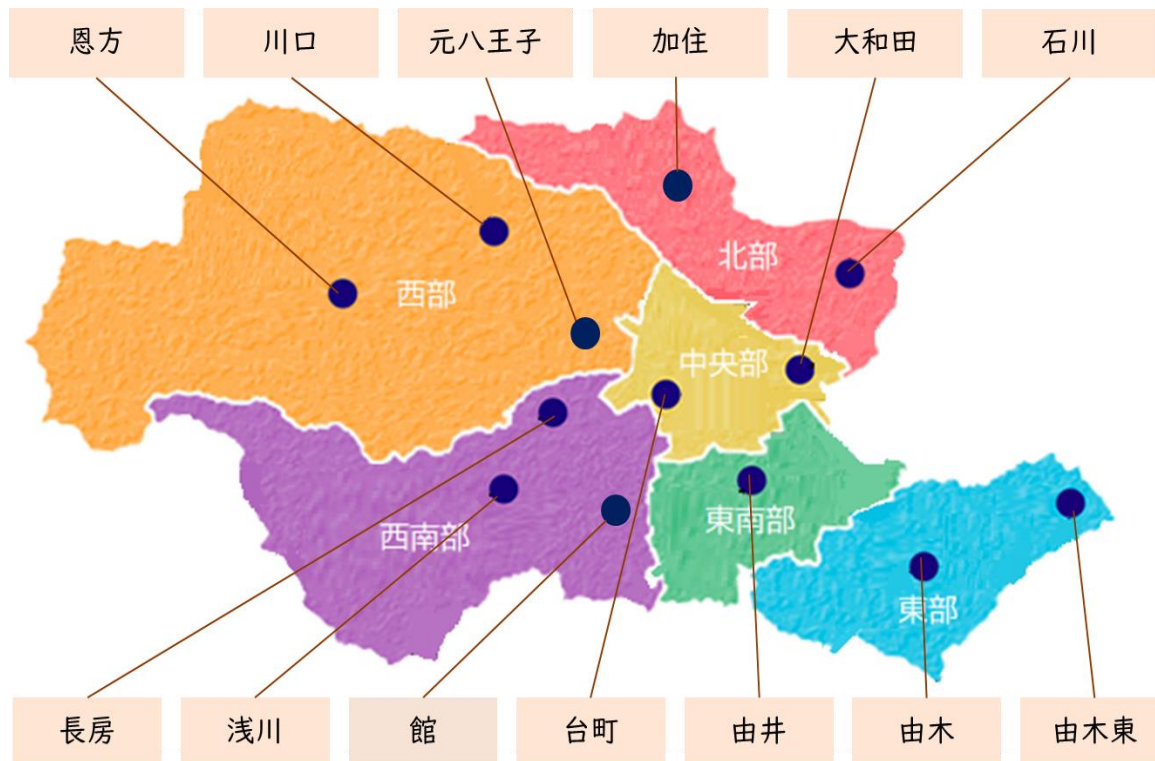
- ・暮らしの様々な困りごとの相談を受け、適切な支援につなげる。
- ・相談者の属性を問わない「総合相談窓口」
- ・社会福祉協議会に委託

【事業開始】

令和3年度（2021年度）

【担当課】

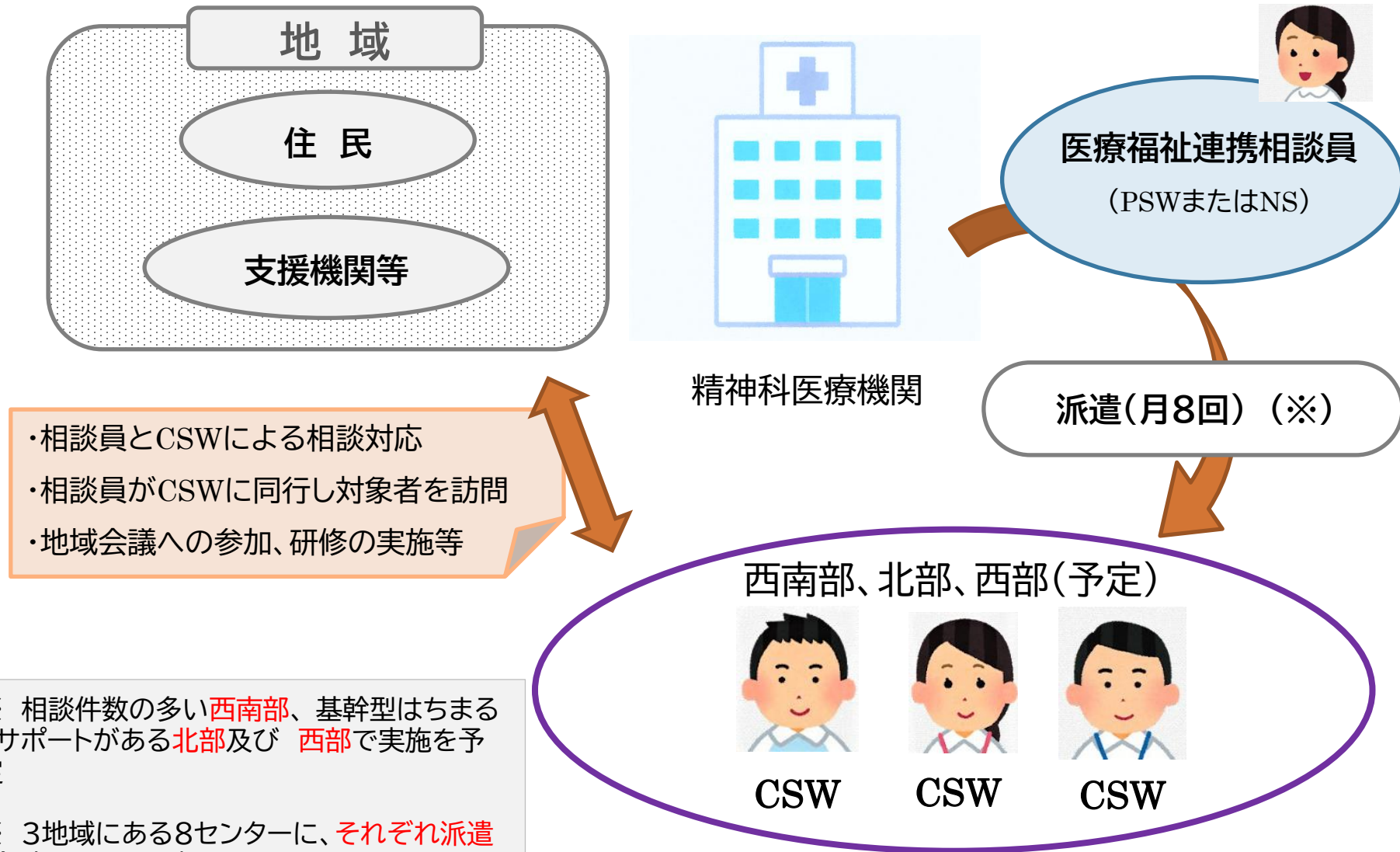
福祉政策課



・6地域に各1～3か所、
合計13か所に設置

・1か所に1～3名の
CSWを配置

5 医療福祉連携型早期訪問支援モデル事業のイメージ

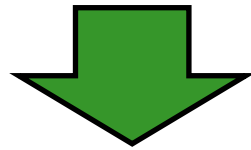


※ 相談件数の多い**西南部**、基幹型はちまるサポートがある**北部**及び **西部**で実施を予定

※ 3地域にある8センターに、**それぞれ派遣**(合計 月8回まで)

6 モデル事業により期待できる効果

早期訪問支援事業で行う早期介入・多職種による支援を更に早い段階から地域の身近な窓口(はちまるサポート)で展開



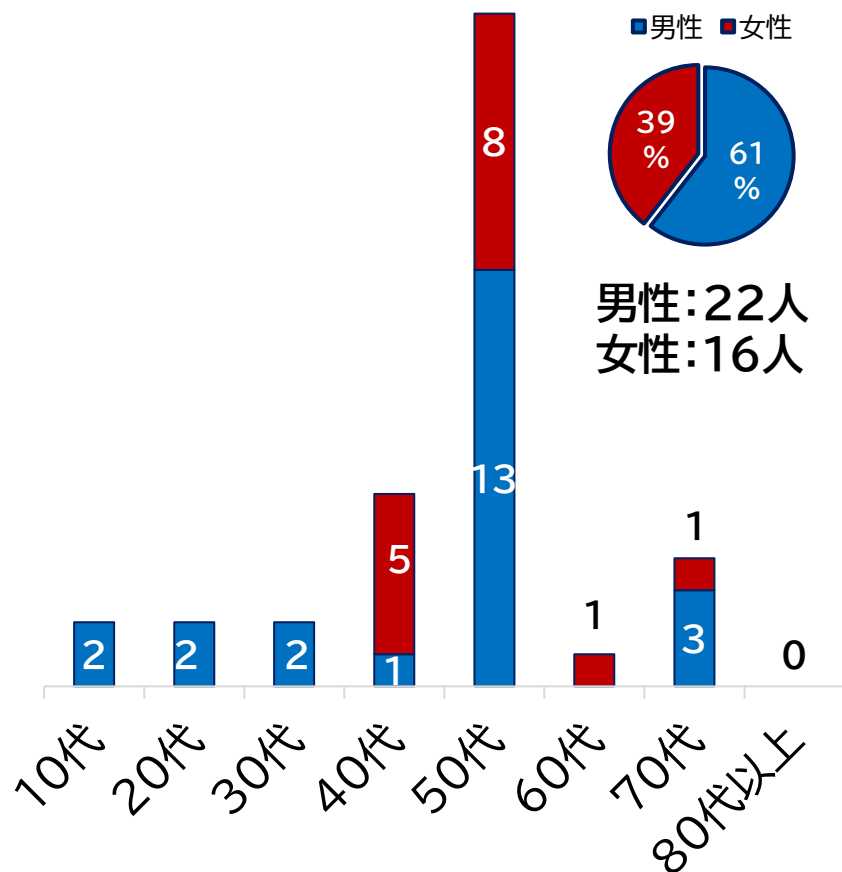
- ★ 問題が複雑化する前に、地域で潜在する課題に介入できる。
 - ★ 相談者が孤立する前に、専門機関へつなぐことができる。
 - ★ はちまるサポートのCSWと医療福祉連携相談員が連携し、対象者へ必要な支援をいち早く行うことができる。
- ➡ 予防医療の充実、市民が安心して暮らせる地域の構築につながる

7 各事業の実施状況

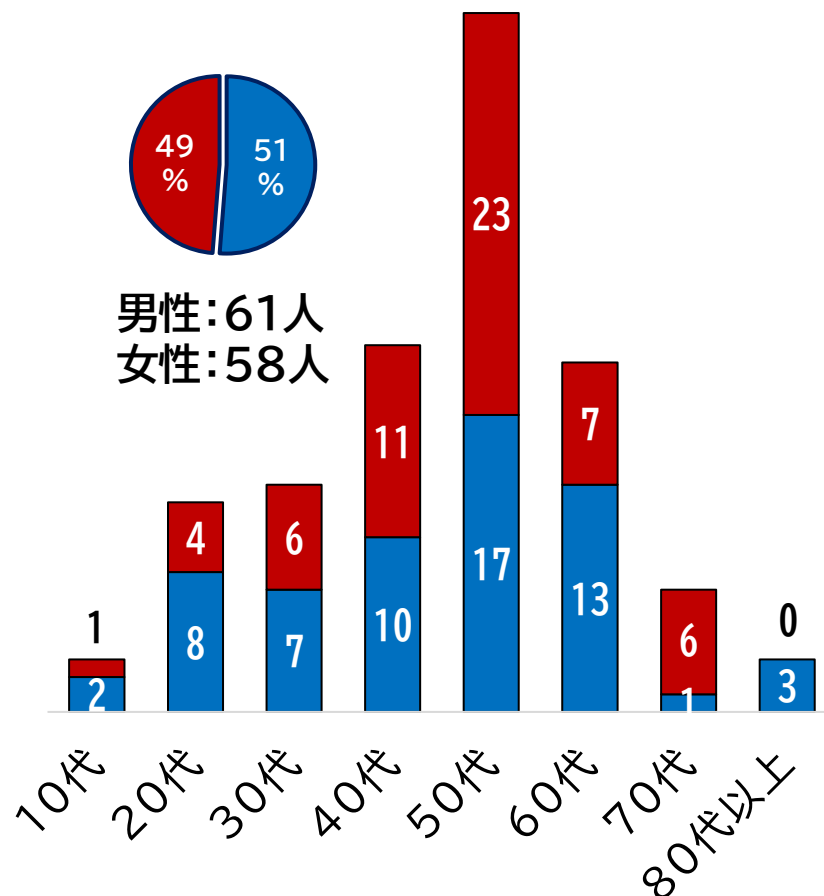
	モデル事業	早期訪問支援事業
期間	R6年10月～11月	R5年4月～R6年3月
実施日数	11日	98日
延べ利用者数	38人	189人
訪問件数	8件	140件
面接	3件	49件
相談	26件	0件

8 事業対象者の年代

モデル事業(n=38)
(R6年10月～11月)

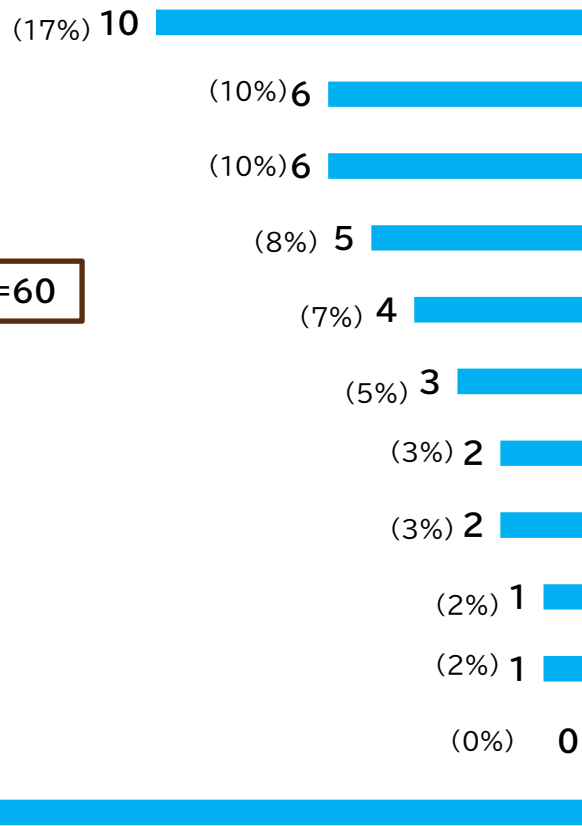


早期訪問支援事業(n=119)
(R5年4月～R6年3月)

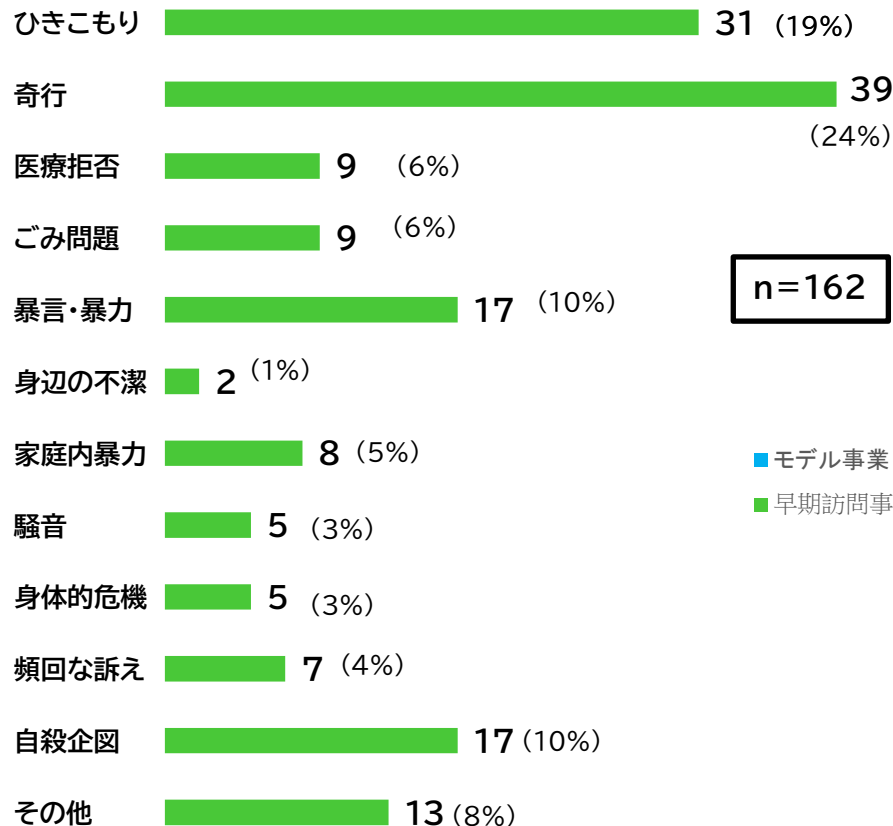


9. 相談内容

モデル事業 (R6年10月～11月)



早期訪問支援事業(R5年4月～R6年3月)

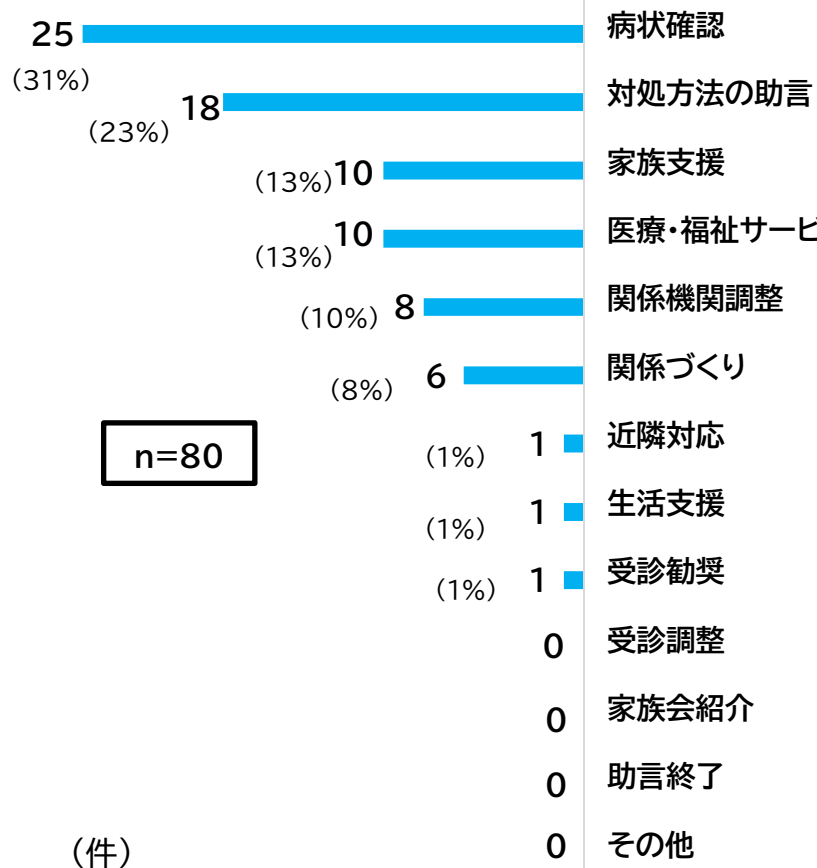


■ モデル事業
■ 早期訪問事業

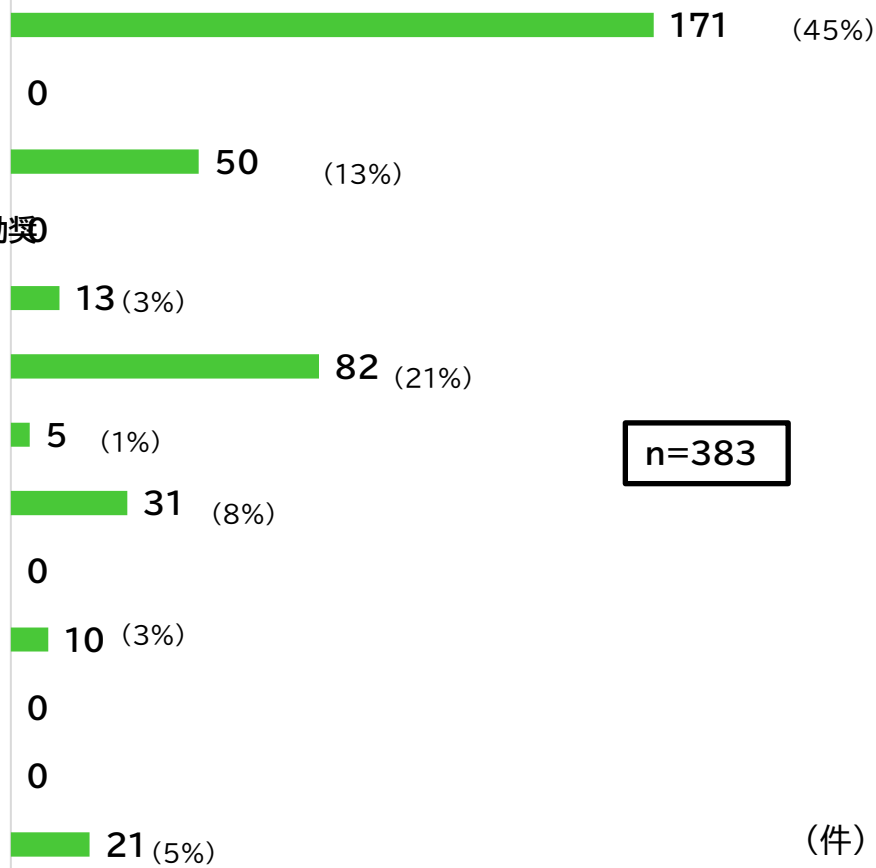
※対象者によって複数の相談内容があるため重複回答

10. 対応内容

モデル事業（令和6年10月～11月）



早期訪問支援事業(R5年4月～R6年3月)



※対象者によって複数の相談内容があるため重複回答

1 1. まとめ

1. モデル事業開始から3か月が経過し、はちまるCSWの事業利用に対する認知が高まってきている。
2. 開始当初は、はちまるCSWと相談員でのケース相談が多かったが、徐々に面接や訪問も増加している。
3. 相談内容は「ひきこもり」が多く、今まではちまるが継続的に関わりながらも行き詰まりがあったケースが多かった。
4. 今後、早い段階でモデル事業利用が進むことで、早期介入による効果が更に期待できる。